

第15回 テーマ 「教職実践演習を振り返って」

- ・期 日 平成23年12月16日(金)3、4時限
- ・受講者 学生 14人 (4年次13人、大学院生1人)
- ・学部教員 井門正美教授(教職実践演習実施委員会委員長)
阿部 昇教授、河又邦彦准教授
- ・担当教員 神居 隆特任教授、石橋研一客員教授、斎藤 孝客員教授

講義「これからの学校教育について」

授業のまとめとして、3人の担当教員がそれぞれ「学校教育の状況と課題等」について講義した。

【学校教育の現状と課題について】

神居 隆特任教授

少子化に伴う本県の児童生徒数の推移を紹介するとともに、県教育委員会で取り組んでいる主要な教育施策について、学力向上や少人数学習推進事業、高校生未来創造支援事業等について述べた。また、本県の学習状況調査結果と全国調査結果の比較を提示するなどこれからの教師の在り方について話した。



【問いを発する子どもについて】

石橋研一客員教授

秋田県が全国学力状況調査で4年連続トップレベルである背景やふるさと教育の推進を紹介した。また、本県の子どもの課題として「問いを発する子ども」を育成することであることを述べ、毎日の授業や日常生活の中で解決する方法を探究すること、高い志と強い意志をもって教師としての道を切り開いていくように話した。

【これからの特別支援教育について】

斎藤 孝客員教授

特別支援教育への転換に伴う今日的課題として、小・中学校の通常学級における発達障害等の子どもの理解と適切な支援の在り方、すべての子どもを大切に教育、「はじめに子どもありき」の視点から教育に当たることを述べた。

協議

「自己の課題や4月までに取り組むべきこと」について、小グループに分かれて協議して発表した。

- ・学級経営では子どもとの信頼関係を築くことが大切である。
- ・子ども一人一人をよく観察してトラブル等への対応に努める。
- ・学校では、他の教職員とのコミュニケーションを図り、心身ともに健康で当たりたい。
- ・学級づくり、授業づくりともに力を入れてやりたい。

リフレクションノートから

- ・自分の課題は何か、そのために何をすべきかについて考えながら積極的に取り組んでいきたい。
- ・教師になってからも様々な経験を得ることができるので、研修をしながら自分も成長していきたい。

全体を通じて学んだこと・考えたこと

・教育実践演習を受講して、教師になるのだという自覚とともに、務まるのかという不安も感じた。しかし、多くの先生たちや同じ受講生から学んだことをもとに実践に向かっていきたい。まずは、健康第一に、先輩の先生たちに頼りながら学ぶ姿勢を大切にしていきたい。

・4月から子どもたちに「先生」と呼ばれることに不安を感じていたが、それは他の人も同じであると分かった。全体を通じて、先生という仕事について学んだことと、悩み不安を相談することができてよかった。

・講師の先生たちの話は、それぞれの教職人生が反映された内容であることを感じた。4月から学校現場で働く、という意識があるからこそ、とても心に染みる話として聞くことができた。

・教師としてこうなりたい、こういう授業や学級経営をしていきたいという目標を明確にすることができた。また、教師を目指す仲間と協議することで、いろいろな考えに触れることができ、4月からがんばっていきたいという意欲につながった。

・様々な経験を積んだ先生たちの話を聞くことができて有益だった。学級通信や教育相談、保護者対応は、4月からすぐに手がける内容であるので、ロールプレイングなどで体験することができて良かった。また、一日実習では、教育実習では見えなかった雑務やPTAでの仕事も拝見することができたので、とても参考になった。

・現場経験のある先生たちの話は、これまでの講義では聞けなかったものが多く、4月から必要となる知識やアイデアを得ることができ、とても自分の力になる授業だった。

授業の内容や進め方の評価、要望など

・毎回、一つのテーマについて協議することで深く考えることができた。子ども理解に関する内容が少し多いように感じた。一日実習も教師と子どもとのかかわりを見たり、子どもと触れあったりということが多かった。子ども理解は大切であるが、授業以外の教師の仕事の内容についてもう少し取り上げてほしい。貴重な学びの機会であった。

・毎回テーマが設定されており、様々な角度から学校や教師としての在り方について考えることができた。ロールプレイや討論があり、自分ならどうするべきかについて考えることができた。一日実習は時間が短く、子どもや教師の仕事について迫ることができず残念だった。

・2コマの時間の中で、講義から演習まであり結構詰まった内容だった。講義や演習の内容はすごくためになるものであり、来年から活用していきたい。グループごとの協議や演習では、固定のグループでなく、校種別などいろいろな組み合わせにすると活性化されるものと思った。

・一時間ごとに、テーマに沿った現場の先生たちを呼んでもらい、とてもためになる授業だった。学生同士で演習課題を考える時間があり、授業内容をより深めることができた。一日実習の経験も多くのことを感じ、学ぶことができた。

・前半は参加できなかったが、とても勉強になる内容だった。4月からの勤務について不安を抱いている時期の授業であり、とても助かった。